

3 障がいのある子ども アンケート調査結果

アンケート 14名(男7名、女7名)

16・17歳	1名	10歳	1名
13～15歳	5名	不明	1名
11・12歳	6名		

サンプル数が14名と他の調査に比べてデータが少ないことと、回答に協力してくれた障がいのある子どもの障がいの種別や程度に限定があることを考慮し、あくまでも事例研究的に位置付けたくうえで、特徴を見ていくことにする。

なお、この分野でのヒアリング調査は行っていない。

1 条例の認知度が非常に低い

子どもの権利条例を「知っている」と回答した障がいのある子どもは2名(14.3%)しかおらず、他の調査と比較しても条例に対する認知度が非常に低い。一方で、条例に基づいた各制度を「1つも知らない」と回答した障がいのある子どもは7名(50.0%)と半数を占めており、これを逆にいえば、半数の障がいのある子どもは、少なくとも1つは制度を知っているということである。条例そのものと具体的な制度が結びついていないことが推測される。

この点も含めて、障がいのある子どもへの情報保障がきちんとなされているかについて、今後検証してしていく必要がある。

2 自分にとって大切な権利は「安心して生きる権利」「自分を守り、守られる権利」

自分にとって大切な権利として、「安心して生きる」権利が11名(78.6%)と多くあげられている。また、「自分を守り、守られる権利」が6名(42.9%)と、2番目に多くあげられている。一方で、障がいのある子どもにとって欠かすことのできない権利である「個別の必要に応じて支援を受ける権利」は2名(14.3%)しかあげていない。

3 「いまの子どもはわがままだからそういわれてもしかたない」とする回答がもっとも高い。

権利よりも責任が大切という意見について、「いまの子どもはわがままだからそういわれてもしかたない」が5名(35.7%)で一番多い。

権利条例の認知度の低さを考慮すれば、子どもの権利について学ぶ機会がどれだけ保障されているのかなどについて検証すべき点であろう。

4 自己肯定感、自尊感情については、7割前後が肯定的にとらえている。

自分のことを「好き」「まあ好き」と回答した子どもが9名(64.3%)、自分は大切にされていると「感じている」「まあ感じている」と回答した子どもが10名(71.4%)とほぼ同数となっている。

5 一番つらかったことは「友達や先輩からの無視、仲間はずれ」

「つらくてどうしようもないこと」を言われたり、されたりした子どもが7名(50.0%)いる。そのうち一番つらかったこととして「友だちや先輩からの無視、仲間はずれ」をあげた回答が5名(71.4%)と、この回答に集中している。一方で、学校がホッとでき安心していられるところと思っている子どもは、9名(64.3%)で、その場所に教室をあげる子どもが8名(88.9%)おり、その理由として「友だちがいるから」との回答が6名(66.7%)とこちらも回答が集中している。

第1部アンケート結果と同様に、「友だち」という存在に功罪両面を見て取ることができよう。

6 家、学校以外でホッとできる場所は、「特にない」が半数

家、学校以外でホッとできる場所として半数の7名が「特にない」と回答し、一方でホッとできる場所として挙げられている場所は「友だちの家」や「祖父母の家」、「公園」、「ゲームセンター」に集中しており、第1部アンケート結果に比べると場所が限られてしまっている。

また、何でも話せる人として挙げられている回答項目も「親」や「友だち」、「学校の先生」に集中している。学校の先生を7名(58.3%)挙げていることは他の調査結果に比べて注目されてよいのかもしれないが、子どもの居場所という観点からは、障がいのある子どもを支えているのが特定の人や場所になりがちになっていることが指摘できる。

7 自分で決めたいと思うものは、「テレビ、ゲーム」とする回答が多い

自分で決めたいと思うものが「テレビ、ゲーム」が9名(64.3%)と、他の項目は平均して3~4名の子どもが選択していることに比べると多めになっている。こども文化センターや子ども夢パークの利用率がほぼ0に近いことなども重ね合わせて考えると、障がいのある子どもはハード・ソフト両面で様々な活動を制約されがちであることがわかる。

8 社会参加には消極的

社会参加という観点では、他の調査に比べて消極的な回答が多い。サンプル数が少なく、たまたま面倒と思う子どもが多かっただけなのかもしれないが、おそらく自分が周囲に働きかけたことでどのような結果をもたらすことができるのか(周囲に影響を与えられるという実感)が経験として少ないことが影響しているのではないかと。このことは、障がいのある子どもをエンパワメントしていくことの大切さを示しているように思われる。

9 自由記述より

- ・私はこんなにわがままとかそういう性格だけど友達から嫌われた事ありますが、そういう性格を直して、地域の人となかよくお祭りしたり色々な事を楽しみたい。
- ・道の坂や段差をなくしてほしい。
- ・僕は養護学校に通っています。たとえ障がいを持っていたとしても、できるかぎり勉強内容を中学生なら中学らしい内容で高校生は高校らしいものに近づけることが必要だと思います。また障がいを持っている人も高校に行きやすいように高校に障がい児学級を作ることが必要だと思います。そして障がい者がもう少し楽に一人暮らしできるように制度やサポート体制をもう少し整備していくことが必要だと思います。